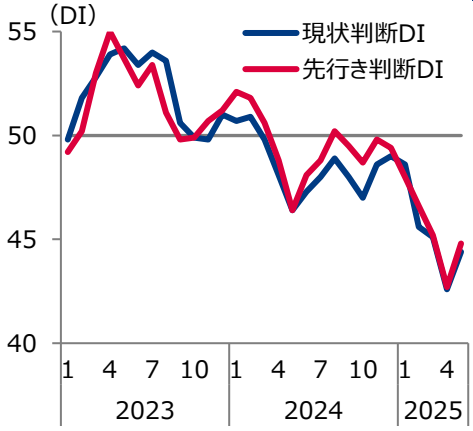
日本

景気ウォッチャー調査（2025年5月）

景況感は5カ月ぶり改善、今後はコメ価格と関税の行方が焦点

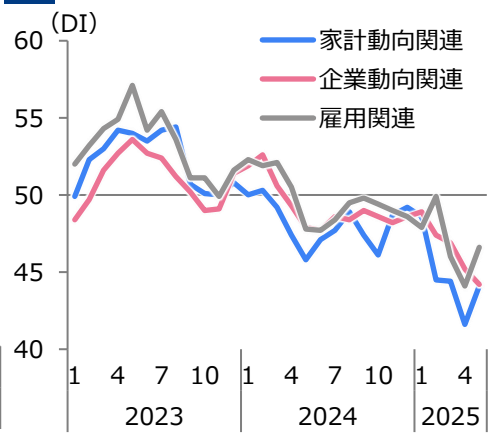
政策・経済センター
山本道也・堂本健太
03-6858-2717

1 現状・先行き判断判断DI



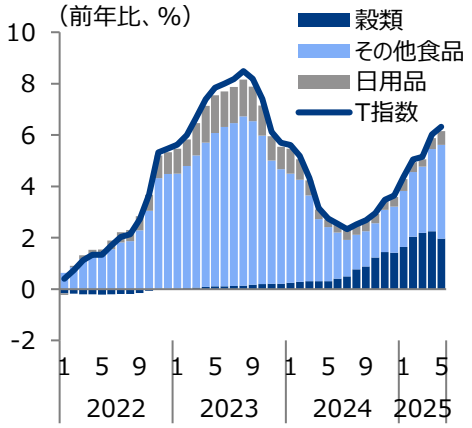
注：季節調整値。
出所：内閣府「景気ウォッチャー調査」を基に三菱総合研究所作成

2 現状判断DI（分野別）



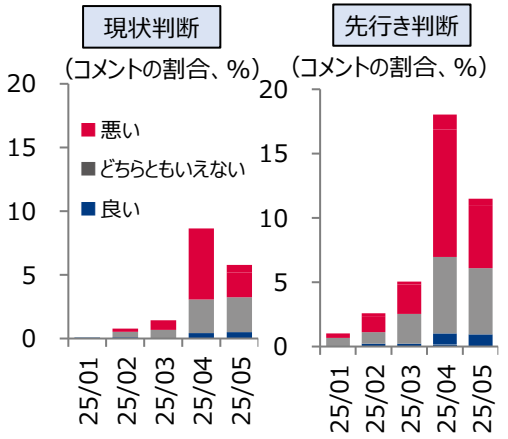
注：季節調整値。
出所：内閣府「景気ウォッチャー調査」を基に三菱総合研究所作成

3 食品・日用品価格（T指数）



注：食品には生鮮食品は含まれない。
出所：株式会社ナウキャスト「日経CPINow」を基に三菱総合研究所作成

4 関税関連コメント割合



注：景気判断理由のうち、「関税」を含むコメントの割合を景気評価別に集計。
出所：内閣府「景気ウォッチャー調査」を基に三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 25年5月の景気ウォッチャー調査では、現状判断DIが44.4（季調済前月差+1.8ポイント）と、5カ月ぶりに改善した（図表1）。分野別にみると、家計動向関連が、生鮮野菜価格の下落（農林水産省「食品価格動向調査」による）などを受けて改善した（図表2）。
- もっとも、DIは依然として中立水準の50を下回っており、全体として物価上昇が景況感の重石になっている構図は変わらない。
- 2～3カ月先の先行き判断DIも44.8（季調済前月差+2.1ポイント）と、改善幅は限定的にとどまっている（図表1）。

基調判断と今後の流れ

- 街角（景気に敏感な事業者）の景況感は、弱い動きが続いている。食品をはじめとする物価高騰や米国関税政策への懸念が、景況感を下押ししている。
- 先行きについて、景況感は物価上昇率の鈍化に伴い、緩やかに改善すると予想する。特に家計の生活実感と関連の深い①食品価格、②エネルギー価格、の下落は景況感に対してプラスに作用するだろう。
- ①について、食品価格の上昇をけん引してきたコメ価格（図表3 ■穀類）は、政府による備蓄米の放出もあり、頭打ちしつつある。今秋以降の供給量安定の目途がつけば、コメ価格は徐々に下落していくと考えられる。
- ②について、原油価格（WTI先物）は4月以降概ね60ドル/バレル前後まで下がっており、電気代・ガス代も時間差をともなって低下すると考えられる。
- ただし、トランプ関税の動向は景況感のかく乱要因である。5月調査で関税の影響を指摘するコメントは減少したものの、先行き判断において関税に関連するコメントは全体の1割以上と（図表4）、景気下振れ懸念が景況感の重石となっている。今後もトランプ関税の動向次第で景況感が上下に振れる可能性がある。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.